

熊本の皆様、昼夜の区別なく揺れ続けるなかで助け合い、励まし合い、疲れ切った身体にムチ打って奮闘しておられることと思います。

昨夜海外より帰国致しましたが、旅の途中 TV の情報に耳を傾けながら、何もお手伝いできない自分に苛立ちを覚えてもおりました。

5 年前の東日本大震災の後、三陸に通いながらその狭間にアートポリスの打ち合わせで熊本空港に降り立つ度に、強い陽ざしと阿蘇の雄大な風景を仰ぎ、「ここは何と豊かな土地だろう」といつも心を和ませておりました。その熊本が無残に被災している映像を見るにつけ、信じ難い想いに駆られます。いつも笑顔で迎えて下さった方々が今は必死になって救済活動に走り回っている姿を想像すると深く心が痛みます。何故平和なはずの日本が次々このような自然の猛威にさらされるのでしょうか。

熊本県は「アートポリス」事業によって設計者をコミッションする制度を 28 年前に立ち上げ、今月まで 4 代の知事がこの事業を継承することによって、若い建築家達への登竜門の機会を与えてきました。これは日本は言うまでもなく世界でも稀有な制度として注目を集めています。

熊本は「建築を、何のために、誰のためにつくるのか」という建築家の使命を日本で最も真剣に考えてきた土地です。

3.11 大震災の際には、蒲島知事自らが主導され、被災地の仮設住宅で苦勞しておられる方々が集まって食事のできる「みんなの家」第 1 号をアートポリス初の県外事業として宮城県内に提供されました。これが契機となって三陸三県に今日まで 14 軒の「みんなの家」が完成し、15 軒目が現在工事中です。また 2012 年の熊本県阿蘇地方での大雨による土砂災害の際には、蒲島知事の要請に基づき、2 ヶ所の仮設住宅地にそれぞれ「みんなの家」を提供しました。これらは仮設住宅の撤去後移設され、地域住民の集会所として利用されております。

このように建築活動や若い建築家に深い理解を示していた熊本県が多大な被害を受けました。私達建築家はこれまでの多大な恩恵に報いるべく、全力をあげて復興のために尽くします。私は既に海外の人々に向けて支援の要請を始めております。

支援を通じて「建築を、何のために、誰のためにつくるのか」を考えるまたとない機会でもあります。

そして被災前の豊かな熊本を回復するだけでなく、より豊かな熊本とするために頑張ります。

熊本の皆様、勇気を奮い立たせて、共に頑張りましょう。

2016 年 4 月 25 日

くまもとアートポリスコミッショナー

伊東豊雄